

(平成4年9月7日会員卓話)

「中国の思い出」

(株) 山口銀行
小野 哲 氏



1987年から三度にわたり足掛け12年中国で留学と勤務を経験しました。初めて中国・北京に入ったのはまさに「北京秋天」の9月。晴れ渡る青空と空気の清涼さに感激したのを今も覚えています。留学先は北京語言学院。鉄格子付きの部屋で一年間、しっかり中国語を勉強させて頂きました。

最初の勤務は98年からの大連駐在員事務所。アカシアの大連として有名で戦前は20万人の日本人が暮らしていた街です。主な仕事は委託加工や合弁会社設立の商談に来られる取引先のアテンドでした。大連勤務中の大事件は89年6月の天安門事件です。情報が乏しいなか、本店から送られてくる新聞のファックスが唯一の情報源でした。中国は世界中からバッシングを受けますが、そのような状況下「投資の流れを止めてはいけない」と、一生懸命進出企業を訪問していた当時の大連市長に感銘を受けました。

二度目の勤務は2008年の北京オリンピック前後の青島です。この時期労働者の平均賃金は5年間で2倍に急伸。高層マンションが次々に建ち、高級ホテルが開店し、人々の生活が日々よくなるのを実感できる時代。デフレの国から来た私にとって、「高度成長期」とはこのような時代（雰囲気）を言うのかと驚きを持って過ごした3年半でした。青島支店は人民元業務を含めフルバンキングをしており、日系の進出企業を中心に多くの取引をさせていただきました。

当時青島に住む日本人は約3,000人。子供の帯同者も少しずつ増え、当時間借りしていた日本人補習校の校舎を新たに建設したのもいい思い出です。日本人学校の会計担当理事や日本人会ゴルフ同好会の事務局長など肩書だけはたくさん頂きました。

青島はドイツ租借時代の建物が多く残り、夏は海水浴やビール祭に多くの旅行者が訪れます。また青島市自体は歴史の浅い街ですが、山東省は魯や齊の国としてなじみの深いところで、中国五岳の一つ泰山、孔子の故郷「曲阜」など多くの歴史遺産があります。

機会があれば、ぜひ中国旅行にお出掛けください。